

1. 調査の目的

札幌市自閉症・発達障がい支援センターでは、発達障がいのある児・者支援における地域課題の検討に資するため、発達障がいに関わる直接支援や相談といった間接支援に携わる者を対象に、地域連携、人材育成、保護者支援、当センターの利用状況等に関する実態調査を行った。

2. 調査概要

(1) 実施期間

2019年5月～同年11月まで

(2) 対象者

発達障がいに関わる直接支援や相談といった間接支援に携わる次の者

ア 子ども期の支援者

- ・ 保育園、幼稚園に所属する者：子ども期①と呼称
- ・ 児童発達支援事業所、放課後等デイサービスに所属する者：子ども期②と呼称

イ 教育関係の支援者

- ・ 小学校、中学校に所属する者：教育関係①と呼称
- ・ 高校、大学に所属する者：教育関係②と呼称

ウ 成人期の支援者

- ・ 生活介護、入所施設、グループホームに所属する者：成人期と呼称
- ・ 自立訓練、就労移行支援、就労継続支援A / B型事業所に所属する支援者：就労支援と呼称

エ ヘルパー関連の支援者

- ・ 居宅介護、行動援護などに所属する者：ヘルパーと呼称

オ 上記以外

- ・ 上記以外の機関に所属する者：その他と呼称

※ 除外対象

- ・ 一般、市民、保護者、当事者のいずれかの記載がみられた回答は除外した

(3) 調査方法

当センターが主催・共催する研修会や調査協力を得られた研修会で調査用紙を配布無記名で回答を求め、調査配布時に目的や集計方法、結果報告について説明

(4) 回答件数

443件

(5) 調査実施主体

札幌市自閉症・発達障がい支援センター

(6) 主な質問項目

回答者の属性、支援者が困った時の相談先について、人材育成に関わる研修内容について、保護者支援の方法について、当センターの利用状況について

3 調査結果の概要

(1) 回答者の属性 (443名)

◆ 回答者が所属する業種 (最も近い1つを選択)

- ・子ども期① (保育園、幼稚園に所属する者) : 53名
- ・子ども期② (児童発達支援事業所、放課後等デイサービスに所属する者) : 161名
- ・教育関係① (小学校、中学校) に所属する者 : 16名
- ・教育関係② (高校、大学に所属する者) : 12名
- ・成人期 (生活介護、入所施設、グループホームに所属する者) : 91名
- ・就労支援 (自立訓練、就労移行支援、就労継続支援A/B型事業所に所属する者) : 72名
- ・ヘルパー (居宅介護、行動援護に所属する支援者) : 10名
- ・その他 (任意で業種を自由記述) : 25名
- ・不明 (例: 2つ以上の選択肢を選んだ回答) : 3名

(2) 支援者が困った時の相談先について

Q1 普段の支援において困った時はどちらに相談しますか

あてはまるものすべてを選択する形式の設問である。結果は「上司」(74.6%)、「同僚」(66.6%)、「施設内会議」(40.6%)、「外部機関」(33.0%)、「その他」(4.7%)となり、「外部機関」に相談するという回答は3割程度であった。

Q2 どちらの外部機関に相談しますか (Q1にて「外部機関」に丸をつけた方のみ)

あてはまるものすべてを選択する形式の設問である。結果は、「関わりのある支援機関」(59.6%)、「相談支援事業所」(39.0%)、「同法人内別事業所」(27.4%)、「病院」(21.9%)、「児童発達支援センター」(20.5%)、「行政機関」(15.8%)、「学校」(6.8%)、「有料コンサルテーション」(1.4%)、「その他」(7.5%)となり、「関わりのある支援機関」が外部機関として最も利用されていた。

Q3 外部機関に相談した感想をお答えください (Q1にて「外部機関」に丸をつけた方のみ)

あてはまるものを1つ選択する形式の設問である。結果は、「まあ満足」(48.6%)、「満足」(37.0%)、「不満」(4.8%)、「とても不満」(0.7%)、「未回答」(8.9%)と、9割近くが「まあ満足」もしくは「満足」と回答していた。

Q4 外部機関に相談しない(できない)理由をお答えください (Q1にて「外部機関」に丸をつけない方のみ)

あてはまるものすべてを選択する形式の設問である。結果は「相談の仕方がわからない」(36.4%)、「相談先がわからない」(29.6%)、「日程調整が難しい」(12.5%)、「以前、相談した時に満足しなかった」(4.0%)、「外部機関に相談する許可が下りない」(1.7%)、「その他」(21.5%)となり、相談方法や相談先がわからないことが外部機関に相談しない(できない)理由の多数を占めていた。

Q5 外部起案からのコンサルテーションへの関心

あてはまるもの1つを選択する形式の設問である。結果は「関心を持っている」(48.1%)、

「受けてみたい」（24.8%）、「相談の仕方がわからない」（13.5%）、「受けてみたいと思わない」（3.8%）、「未回答」（9.7%）となり、2割以上が「受けてみたい」との回答をしていた。

(3) 人材育成に関わる研修内容について

Q6 職員研修では、どのような内容を取り上げていますか

あてはまるものすべて選択する形式の設問である。結果は、「支援方法」（73.4%）、「障がい理解」（58.2%）、「虐待防止」（39.5%）、「実践報告」（23.5%）、「保護者支援」（23.0%）、「チーム支援」（21.2%）、「多機関連携」（16.5%）、「関連する法律・制度」（15.6%）、「二次障がい」（13.1%）、「マナー講座」（12.9%）、「その他」（4.3%）となり、職員研修では上述の3つのテーマが取り上げられていた。

Q7 研修会で聞いてみたい内容を教えてください

あてはまるものすべて選択する形式の設問である。結果は、「支援方法」（63.2%）、「障がい理解」（45.1%）、「保護者支援」（44.7%）、「二次障がい」（33.6%）、「実践報告」（30.9%）、「他機関連携」（30.0%）、「チーム支援」（28.4%）、「関連する法律・制度」（19.9%）、「虐待防止」（15.1%）、「マナー講座」（8.4%）、「その他」（4.3%）となり、研修会で聞いてみたい内容に「保護者支援」が上位三位に含まれていた。

(4) 保護者支援の方法について

Q8 保護者支援の取り組みについてお答えください

あてはまるものすべて選択する形式の設問である。結果は、「面談を行っている」（61.6%）、「座談会を行っている」（15.6%）、「学習会を行っている」（10.4%）、「ペアレントプログラム・トレーニングなど」（5.2%）、「保護者支援は行っていない」（16.3%）、「その他」（5.0%）となり、6割以上が保護者支援としては「面談を行っている」と回答していた。

(5) 当センターの利用状況について

Q9 これまでに（アンケート回答時の研修を除き）当センターの利用内容についてお答えください

あてはまるものすべて選択する形式の設問である。結果は、「利用したことがない」（44.0%）、「研修を利用」（30.5%）、「機関支援を利用」（12.6%）、「利用の仕方がわからない（12.0%）」、「相談機能を利用（7.0%）」、「ケース会議で利用（4.7%）」となり、調査協力者の4割程度が「利用したことがない」という回答していた。

Q10 当センター作成の個別支援計画様式（みらくる）をご存知ですか

あてはまるものを1つ選択する形式の設問である。結果は、「興味がある」（44.5%）、「使っていない」（40.2%）、「使っている」（5.6%）、「使い方がわからない」（7.0%）、「未回答・不明」（7.0%）となり、4割程度が「使っていない」と回答していた。

4 調査結果の詳細

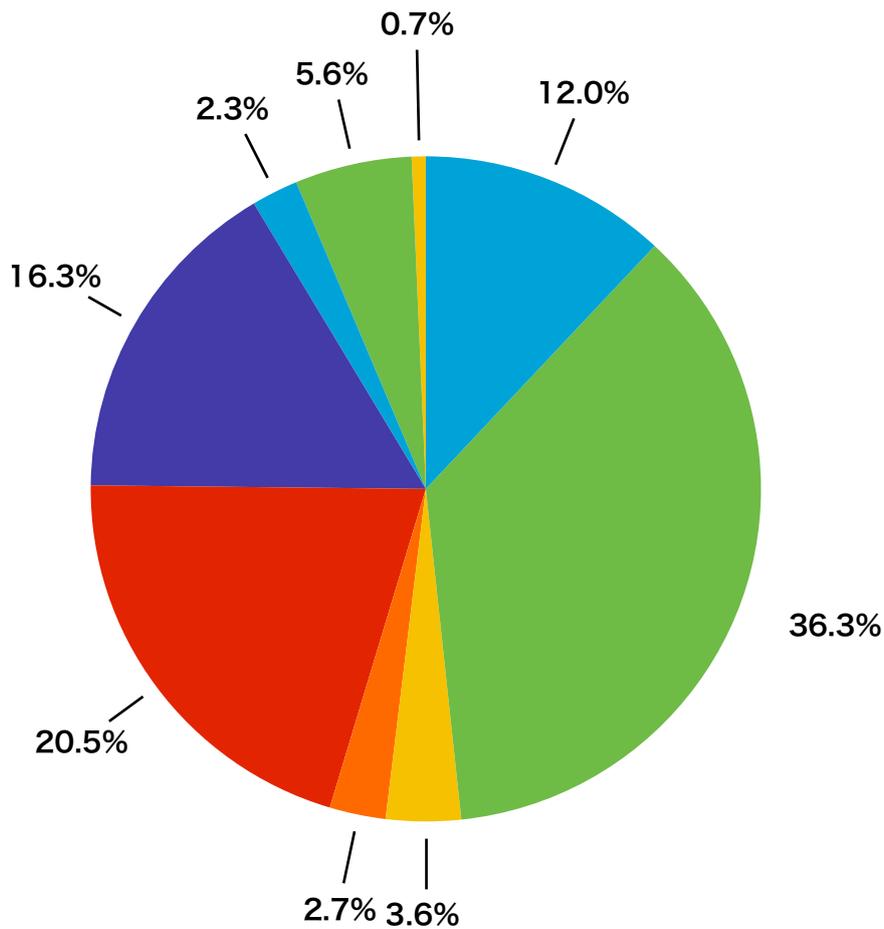
下記の通りである

(1) 回答者の属性

◆ 業種についてお答えください (A~Hの中で、一番近い業種を1つ選び○で囲んでください)

調査協力者は全体で443名であった。「子ども期②」に分類される支援者が36.3%と最も多かった。割合として10%を超えていたのは「子ども期②」の他に「成人期」20.5%、「就労支援」16.3%、「子ども期①」12.0%の3つであった。割合が10%以上の4つの業種はそれぞれ50名を超える回答が得られたため、個別集計の対象とした。集計結果は別紙にて報告する。

調査協力者の内訳 (N = 443)



- 子ども期① (保育園・幼稚園など)
- 子ども期② (児童発達支援事業所・放課後等デイサービスなど)
- 教育関係① (小学校・中学校など)
- 教育関係② (高校・大学など)
- 成人期 (生活介護・入所施設・グループホームなど)
- 就労支援 (自立訓練・就労移行支援・就労継続支援A/B)
- ヘルパー (居宅介護・行動援護など)
- その他
- 不明

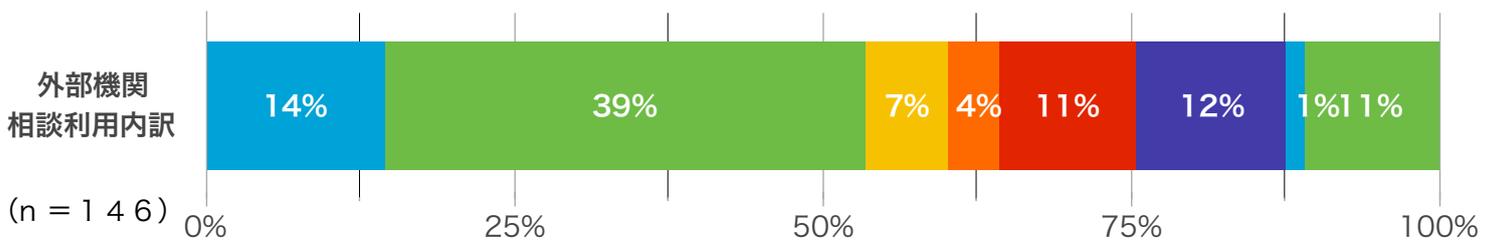
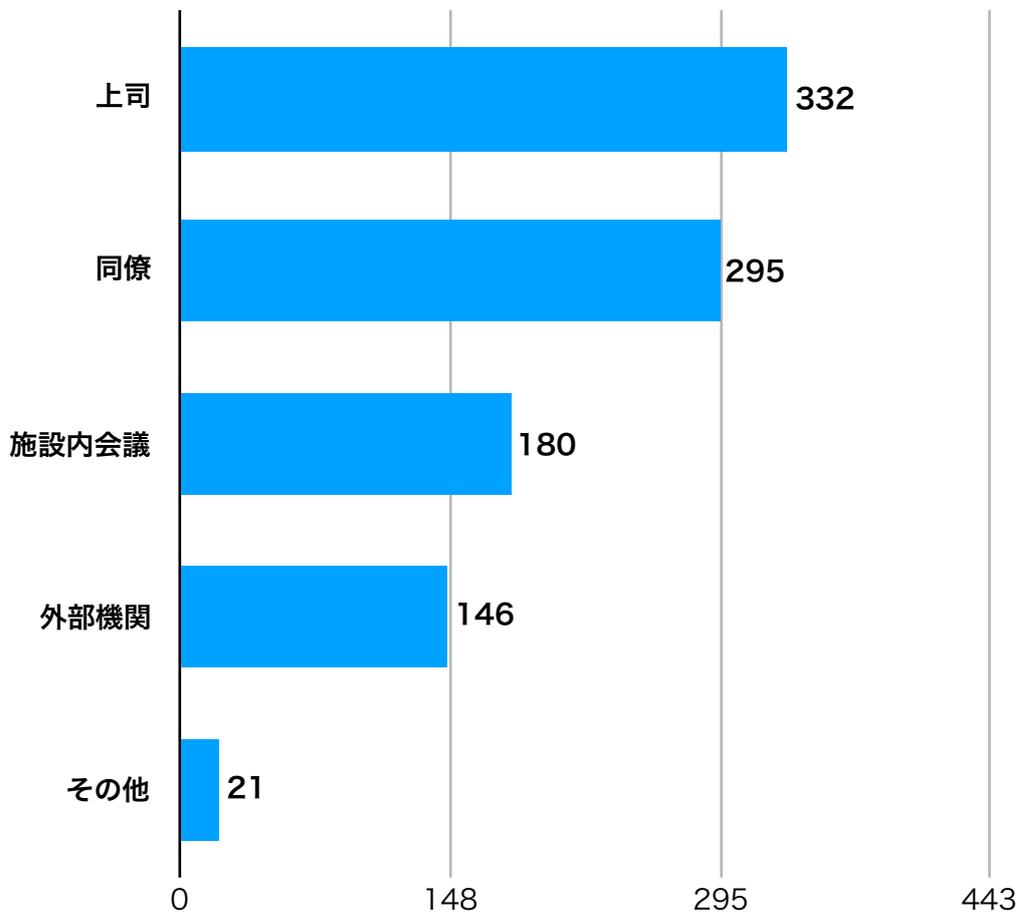
(2) 支援者が困った時の相談先について

Q1 普段の支援において困った時は、どちらに相談しますか。(A~Eのうち当てはまるものを○で囲んでください：複数回答可)

結果は「上司」(74.6%)、「同僚」(66.6%)、「施設内会議」(40.6%)、「外部機関」(33.0%)、「その他」(4.7%)となり、「外部機関」に相談するという回答は3割程度であった。「その他」の回答として、元同僚や元上司、専門職、研修会の参加、友人、理事会などと記載されていた。

また外部機関の相談利用を回答した146名の内訳は業種別の調査協力者の人数におおむね比例していた。どの業種の支援者であっても困った時の相談先として外部機関を利用していた。

■ 困った時の相談先 (n = 146)



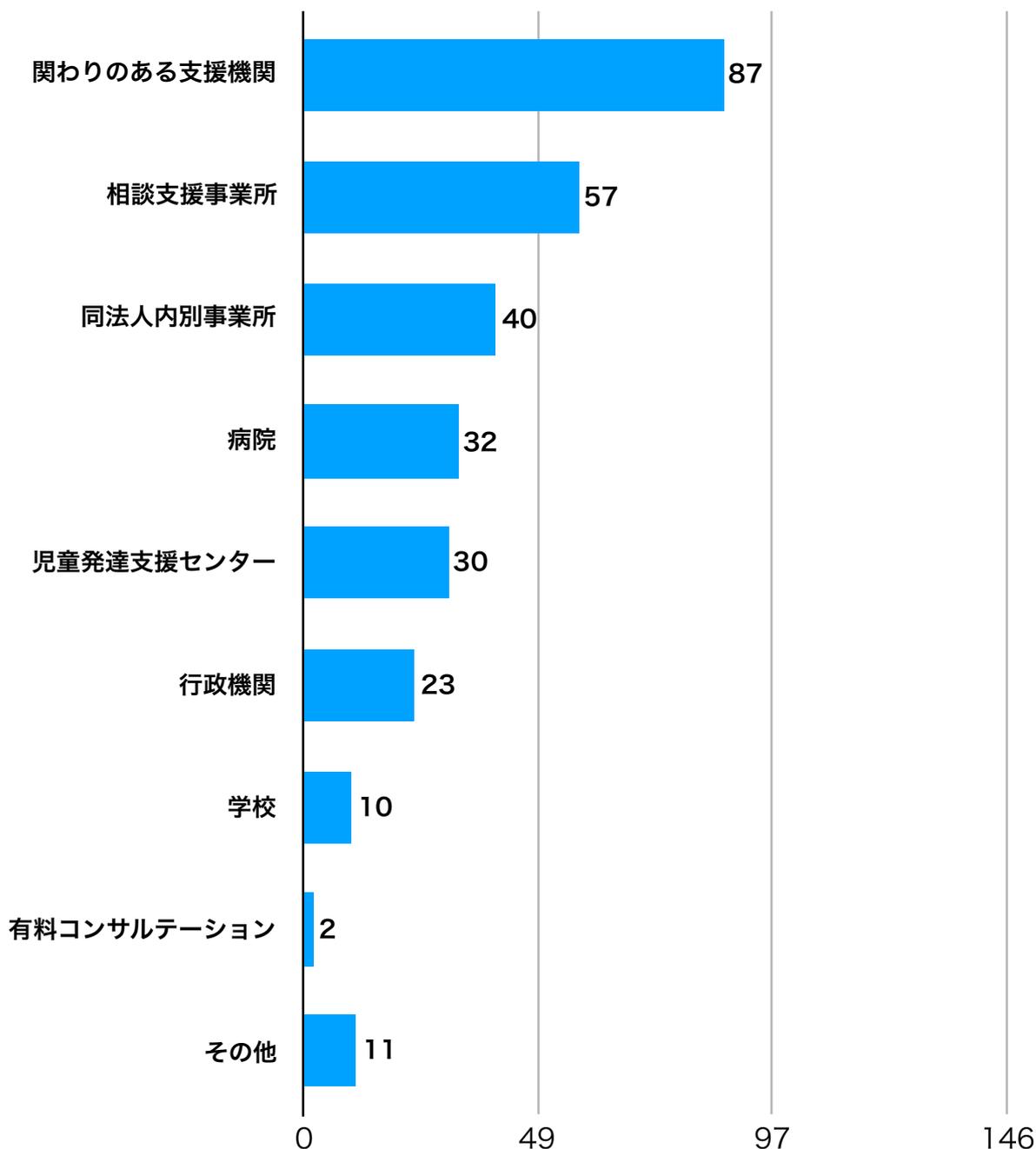
- 子ども期① (保育園・幼稚園など)
- 子ども期② (児童発達支援事業所・放課後等デイサービスなど)
- 教育関係① (小学校・中学校など)
- 教育関係② (高校・大学など)
- 成人期 (生活介護・入所施設・グループホームなど)
- 就労支援 (自立訓練・就労移行支援・就労継続支援A/B)
- ヘルパー (居宅介護・行動援護など)
- その他

Q2 Q1にて「D 外部機関」に丸をつけた方にお聞きします。どちらの外部機関に相談しますか。（A～Iのうち当てはまるものを○で囲んでください：複数回答可）

Q1にて外部機関に○をつけた146名を抽出して集計した。結果は「関わりのある支援機関」（59.6%）、「相談支援事業所」（39.0%）、「同法人内別事業所」（27.4%）、「病院」（21.9%）、「児童発達支援センター」（20.5%）、「行政機関」（15.8%）、「学校」（6.8%）、「有料コンサルテーション」（1.4%）、「その他（7.5%）」となり、「関わりのある支援機関」が外部機関として最も利用されていた。

「その他」には、親の会、就業・生活支援センター、児童相談所などと回答されていた。

■ 外部機関の相談先 (n = 146)

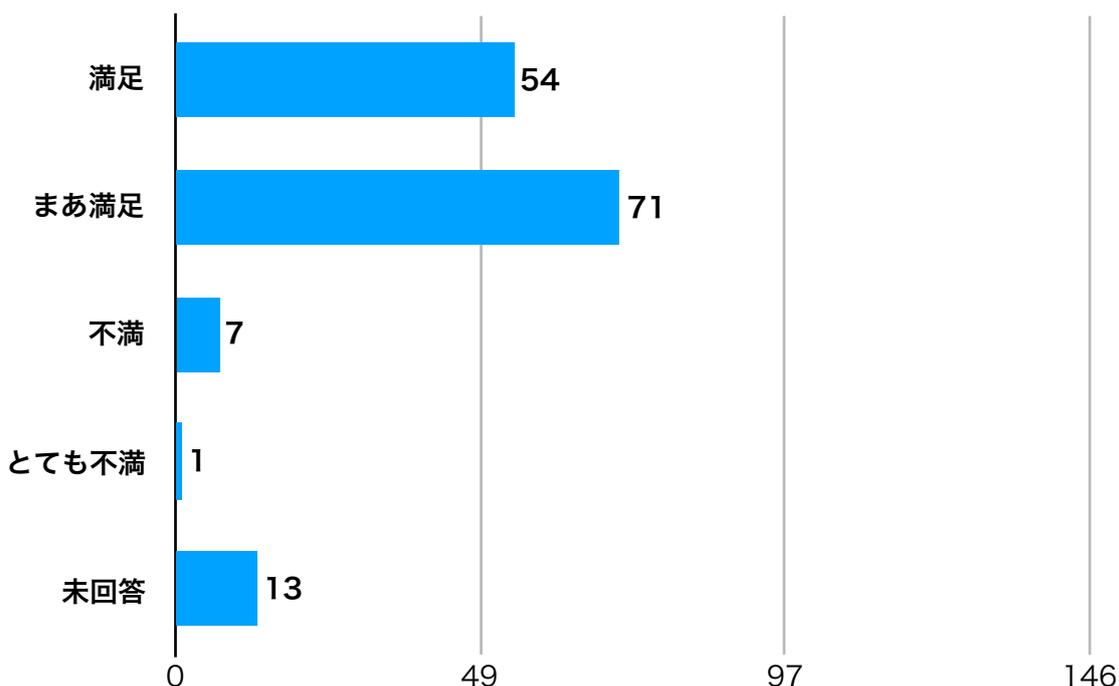


Q3 Q1にて「D 外部機関」に丸をつけた方にお聞きします。外部機関に相談した感想をお答えください。（A～Dのうち当てはまるものを一つ選び、○で囲んでください）

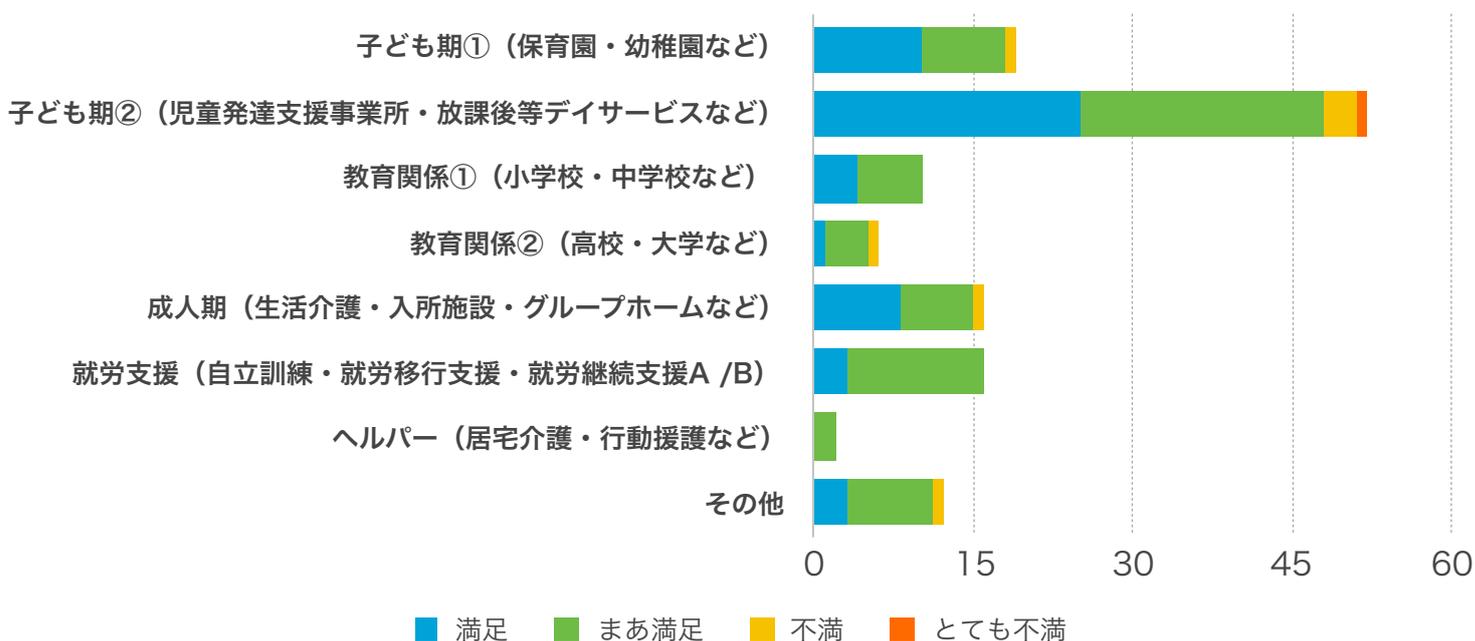
Q1にて外部機関に○をつけた146名を抽出して集計した。「まあ満足」（48.6%）、「満足」（37.0%）、「不満」（4.8%）、「とても不満」（0.7%）、「未回答」（8.9%）と、9割近くが「まあ満足」もしくは「満足」と回答していた。

業種別の内訳からは、いずれの業種も、外部機関に相談した感想として8割程度が「満足」または「まあ満足」に回答していることがうかがえた。

■ 外部機関に相談した感想 (n = 146)

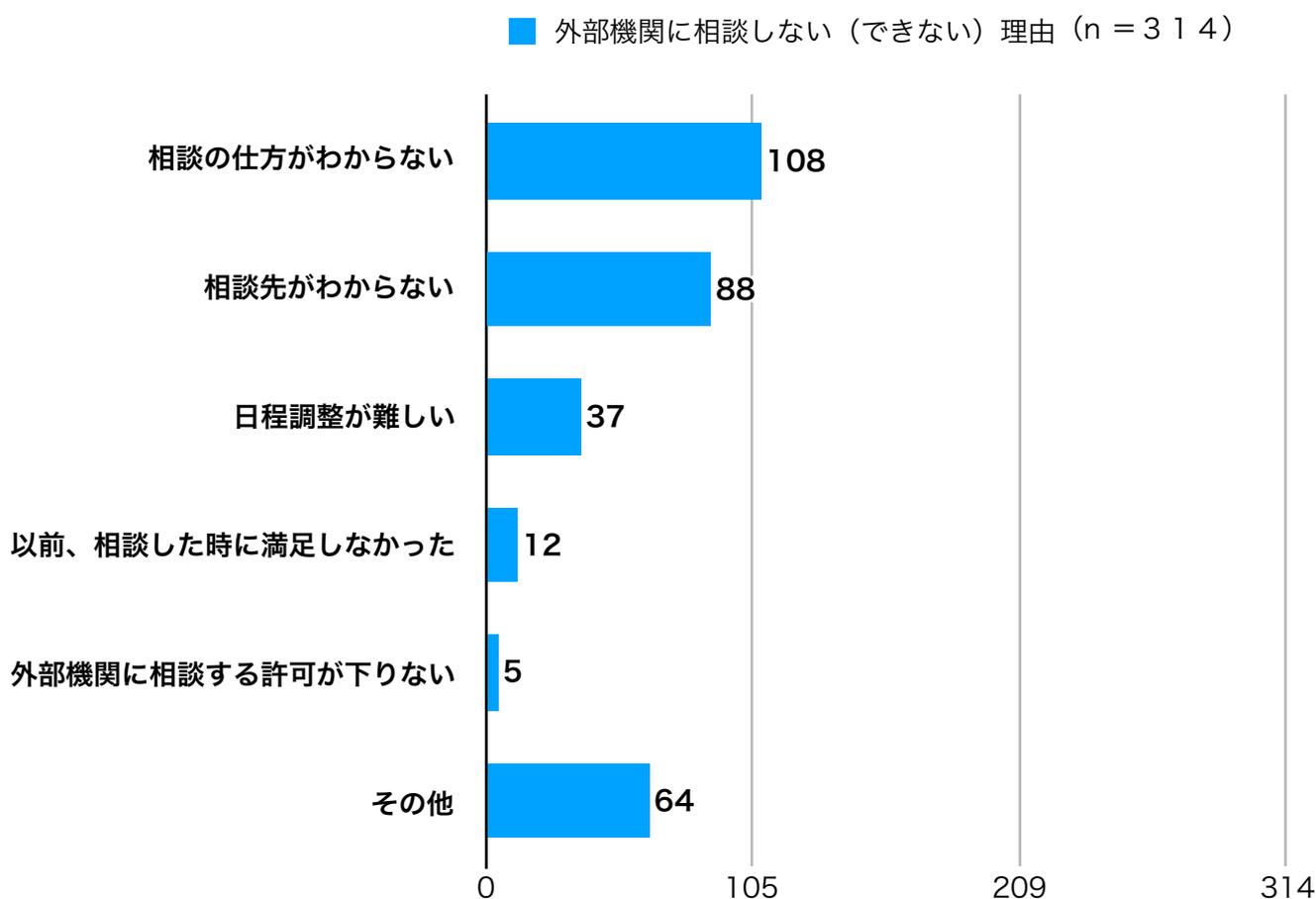


外部機関に相談した感想の業種別内訳 (n = 146)



Q4 Q1にて「D 外部機関」に丸をつけなかった方にお聞きします。差し支えなければ外部機関に相談しない（できない）理由を、お答えください。（A～Fのうち当てはまるものを○で囲んでください：複数回答可）

Q1にて外部機関に○をつけなかった314名を抽出して集計した。結果は、「相談の仕方がわからない」（36.4%）、「相談先がわからない」（29.6%）、「日程調整が難しい」（12.5%）、「以前、相談した時に満足しなかった」（4.0%）、「外部機関に相談する許可が下りない」（1.7%）、「その他」（21.5%）となり、相談方法や相談先がわからないことが外部機関に相談しない（できない）理由の多数を占めていた。「その他」には上司との相談で解決していることや外部相談への必要性を感じなかったことが主な理由と記載されていた。

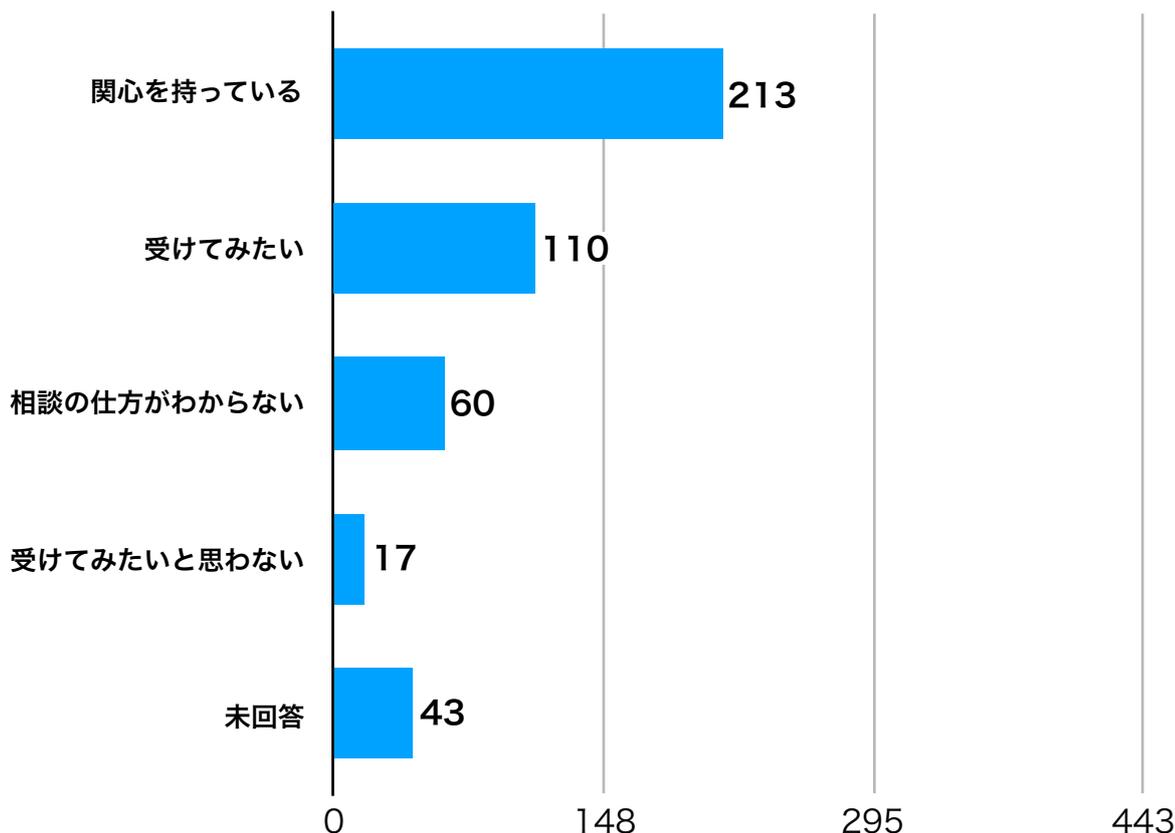


Q5 外部機関からのコンサルテーション（事業所訪問によるケース検討等）への関心をお持ちでしょうか。（A～Dのうち当てはまるものを一つ○で囲んでください）

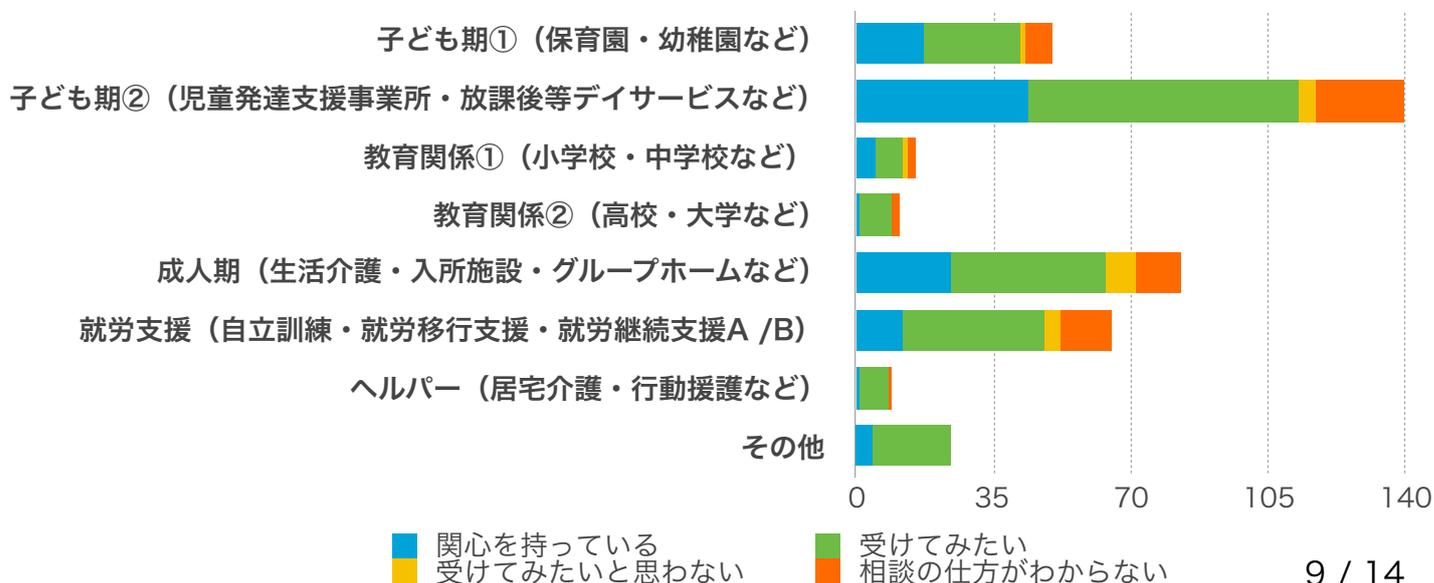
結果は「関心を持っている」（48.1%）、「受けてみたい」（24.8%）、「相談の仕方がわからない」（13.5%）、「受けてみたいと思わない」（3.8%）、「未回答」（9.7%）となり、2割以上が「受けてみたい」との回答をしていた。

業種別の内訳からは、いずれの業種も7割程度が外部からのコンサルテーションについて肯定的な回答をしていた。

■ 外部機関からのコンサルテーションへの関心（N = 433）



■ コンサルテーションへの関心 業種別内訳（N = 443）

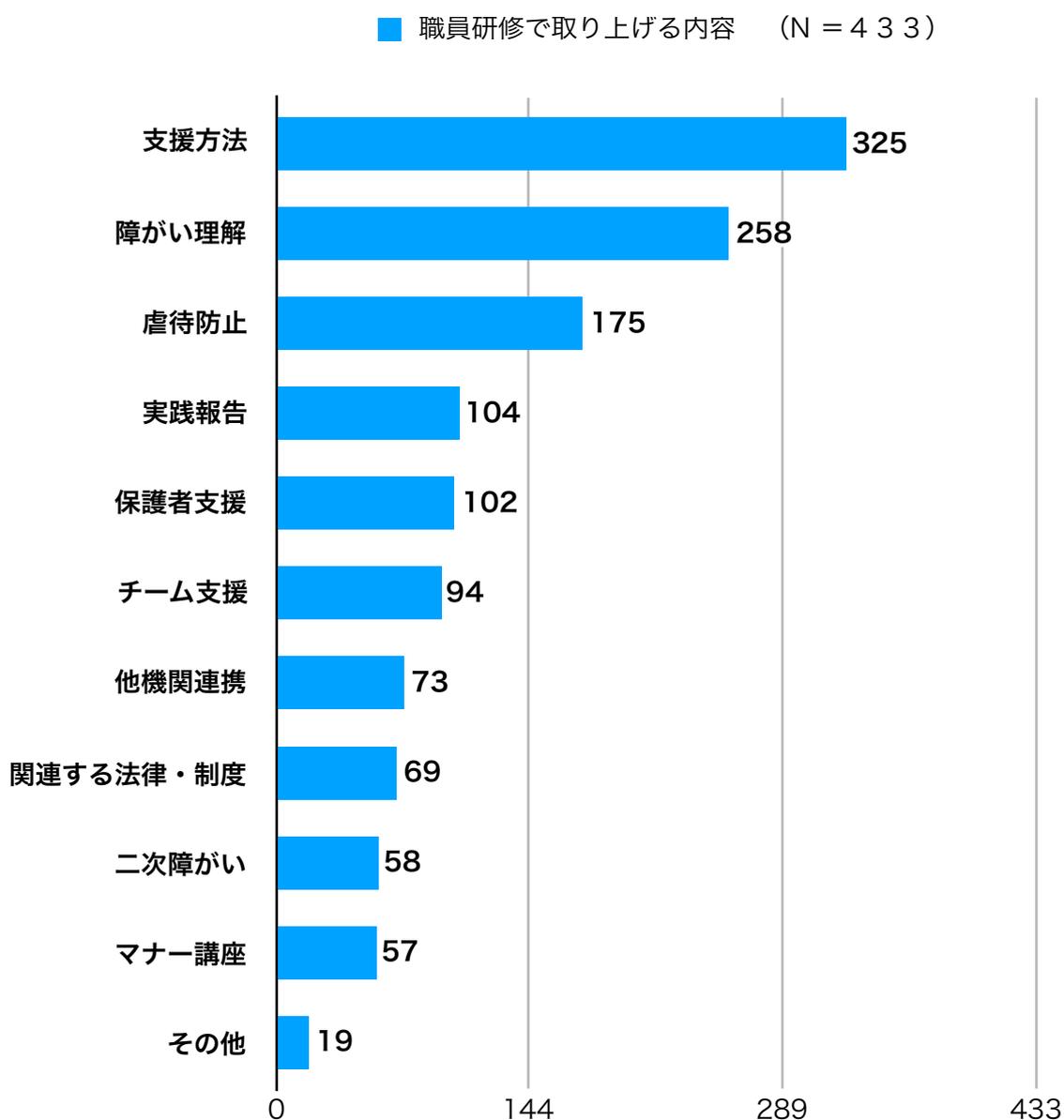


(3) 人材育成に関わる研修内容について

Q6 職員研修では、どのような内容を取り上げていますか。(A~Kのうち当てはまるものを○で囲んでください：複数回答可)

結果は、「支援方法」(73.4%)、「障がい理解」(58.2%)、「虐待防止」(39.5%)、「実践報告」(23.5%)、「保護者支援」(23.0%)、「チーム支援」(21.2%)、「多機関連携」(16.5%)、「関連する法律・制度」(15.6%)、「二次障がい」(13.1%)、「マナー講座」(12.9%)、「その他」(4.3%)となり、職員研修では上述の3つのテーマが取り上げられていた。

「その他」の回答として「面談方法」や「高齢化対策」、「危機管理」、「事例検討」、「保育」、「防災」、「アンガーマネジメント」などが記載されていた。

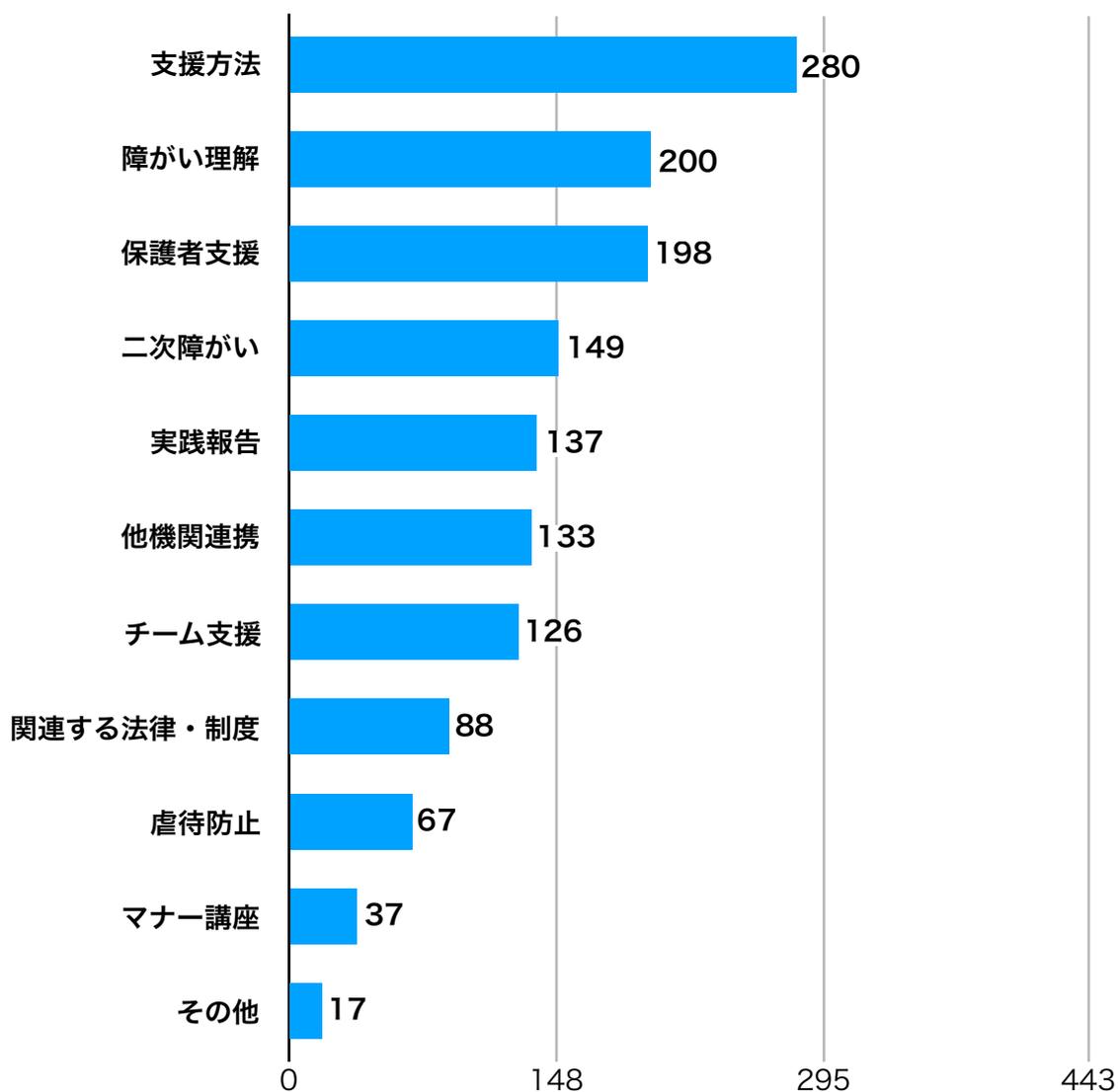


Q7 研修会で聞いてみたい内容をお答えください。(A~Kのうち当てはまるものを○で囲んでください：複数回答可)

結果は、「支援方法」(63.2%)、「障がい理解」(45.1%)、「保護者支援」(44.7%)、「二次障がい」(33.6%)、「実践報告」(30.9%)、「他機関連携」(30.0%)、「チーム支援」(28.4%)、「関連する法律・制度」(19.9%)、「虐待防止」(15.1%)、「マナー講座」(8.4%)、「その他」(4.3%)となり、研修会で聞いてみたい内容に「保護者支援」が上位三位に含まれていた。

「その他」の回答として「記録の書き方」や「性のこと」、「不登校」、「愛着障がい」、「ハラスメント」、「遊び」、「コンサルテーションの方法」、「身体・精神障がいへの理解」などが記載されていた。

■ 研修会で聞いてみたい内容 (N = 433)



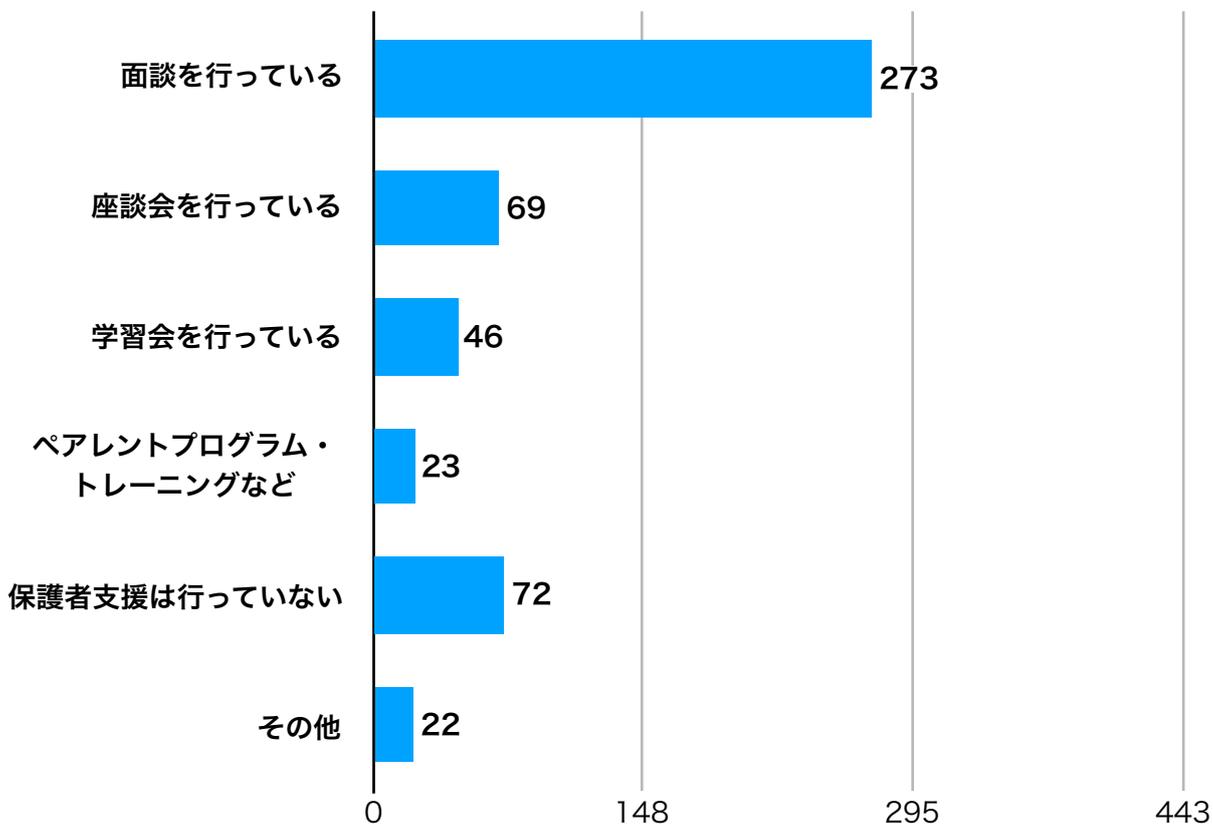
(4) 保護者支援の方法について

Q8 保護者支援の取り組みについて教えてください。(A~Fのうち当てはまるものを○で囲んでください：複数回答可)

結果は、「面談を行っている」(61.6%)、「座談会を行っている」(15.6%)、「学習会を行っている」(10.4%)、「ペアレントプログラム・トレーニングなど」(5.2%)、「保護者支援は行っていない」(16.3%)、「その他」(5.0%)となり、6割以上が保護者支援としては「面談を行っている」と回答していた。

「その他」の回答として、「PCITの実施」、「短時間でのやり取り」、「連絡ノート」、「訓練場面の見学」、「電話相談」、「行事・イベント企画」、「送迎時の声かけ」と記載されていた。

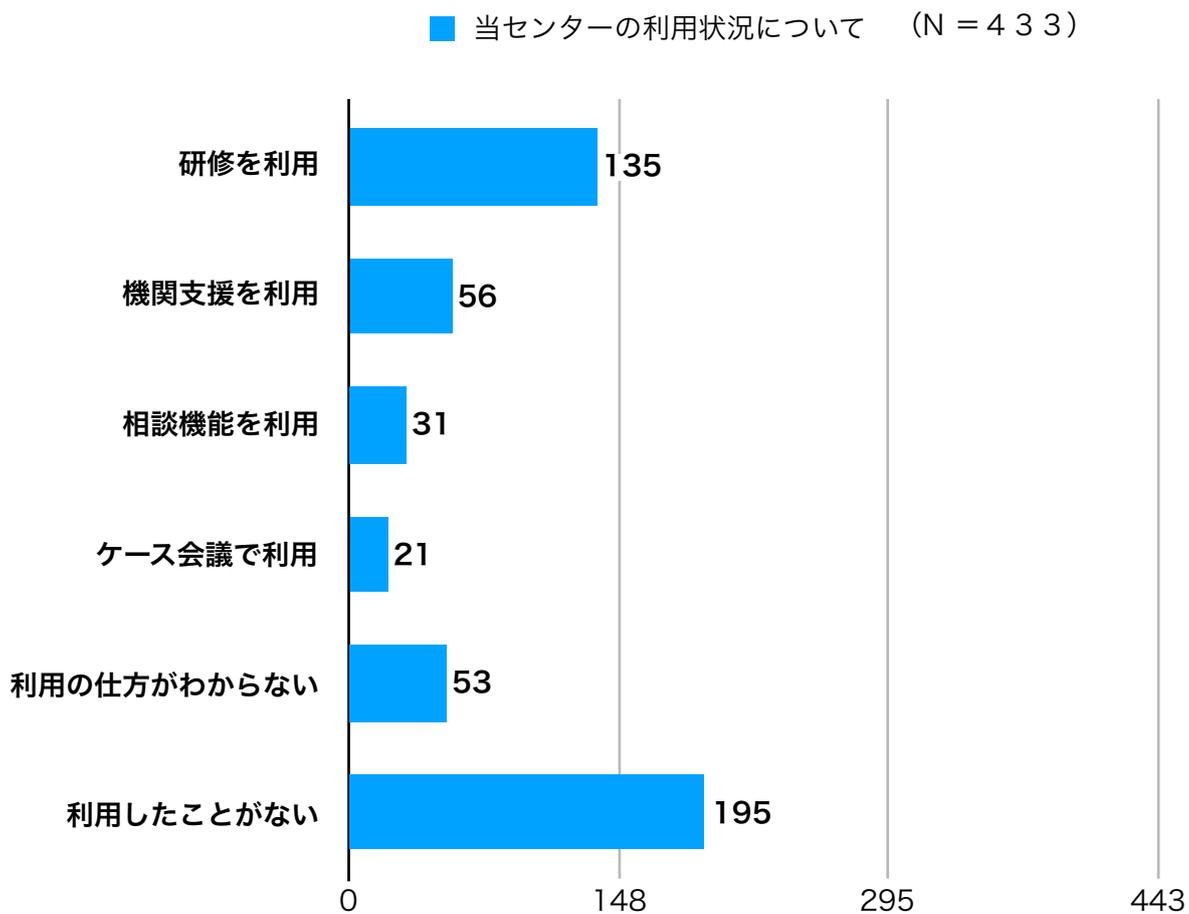
■ 保護者支援の取り組みについて (N = 433)



(5) 当センターの利用状況について

Q9 私ども自閉症・発達障がい支援センターを利用したことはございますか。※今回の研修を除き
※ (A～Fのうち当てはまるものを○で囲んでください：複数回答可)

調査協力以前の当センターの利用状況について質問した。結果は、「研修を利用」(30.5%)、「機関支援を利用」(12.6%)、「相談機能を利用(7.0%)」、「ケース会議で利用(4.7%)」、「利用の仕方がわからない(12.0%)」、「利用したことがない」(44.0%)、となり、調査協力者の3割程度が「研修を利用」という回答していた。一方、4割程度が「利用したことがない」と回答していた。



Q10 おがるが作成した「個別支援計画様式（みらくる）」をご存知ですか。（A～Dのうち当てはまるものを○で囲んでください）

結果は、「使っている」（5.6%）、「使っていない」（40.2%）、「興味がある」（44.5%）、「使い方がわからない」（7.0%）、「未回答・不明」（7.0%）となり、「使っている」との回答は5%程度であった。また4割以上が「興味がある」と回答していた。

